

事務事業名	ハウス棟運動助成事業					☐ マニフェスト関連		☐ 全庁横断課題関連		
政策名	総合計画 3	働く人々が輝き続けるまちづくり				所属部	産業振興部	所属課	農政課	
施策名	1	農業の振興				所属係	農業振興班	課長名	古閑 誠也	
基本事業名	3	生産基盤の確保				担当者名	上山直美	電話番号 (内線)	248-1111 1166	
予算科目	会計 0	1	0	6	0	1	0	5	7	7
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 (開始年度 8 年度 ~) (年度 ~ 年度)									
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)				
(事業の内容) 竜門ダムの水を利用した新たな農産物の展開を目指し高齢化兼業化した農家の活性化を図るため農業経営基盤の強化を支援する。 (業務の内容) 補助金交付に係る申請の受理、審査、交付決定、支払い、確認検査、交付確定事務 竜門ダムの水を利用した新たな農業、農産物の展開、生産販売を通じた農業経営基盤の強化を図る。 補助対象経費は、市が定める規格のビニールハウス一式の立て込み等に要する経費の2分の1以内。 Aタイプ500㎡(間口5m×長さ100m) 300,000円 Bタイプ300㎡(間口5m×長さ60m) 180,000円 (予算の内訳) 負担金補助及び交付金						総投入量	事業費	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源		
							人件費	事業費計 (A)	0	
							人件費	正規職員従事人数 延べ業務時間		
							人件費	人件費計 (B)	0	
							人件費	トータルコスト(A)+(B)	0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

申請者 4 名

補助金交付に係る申請の受理及び審査、交付決定、支払い、確認検査、確定事務

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

なし

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

市内の農家

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

新しい作物を作り出す

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

生産基盤が整っている

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 助成件数	件
イ	
ウ 19年度計画なし	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 申請農家数	戸
イ	
ウ	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 助成を受けた農家で新しい作物を生産した農家数	戸
イ	
ウ	

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 安定した収入が得られたと答えた割合 %	%
イ	
ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移

			単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	年度 (最終目標)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円						
			都道府県支出金	千円						
			地方債	千円						
			その他	千円						
			一般財源	千円	570	600	928	0	0	0
			事業費計 (A)	千円	570	600	928	0	0	0
	人件費		正規職員従事人数	人	2	2	2			
			延べ業務時間	時間	20	20	20			
			人件費計 (B)	千円	50	50	79	0	0	0
			トータルコスト(A)+(B)	千円	620	650	1,007	0	0	0
活動指標		アイウ	件			4	0	0	0	
対象指標		アイウ	戸			4	0	0	0	
成果指標		アイウ	戸				0	0	0	
上位成果指標		アイウ	%				0	0	0	

事務事業名	ハウス棟運動助成事業	所属部	産業振興部	所属課	農政課
-------	------------	-----	-------	-----	-----

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
竜門ダムの水を利用した新たな農業、農産物の展開を図り、生産販売を通じた農業経営基盤の安定を図る。
平成8年より、竜門ダムの水を利用した施設園芸(アスパラ、イチゴ等)の新たな農産品の創出を図る。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？
利用者、対象作物、事業の利用は頭打ち状態となっている

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
施設園芸農家には、役に立っている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒ 意図の「新しい作物を作り出す」ことにより、結果の「安定した収入が確保できる」に結びつく
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒ 竜門ダムの水の利用については、国、県の施策でもあり妥当である
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒ 対象、意図とも適切である
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 当初の目標を達成したので事業完了
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☒ 影響無 ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 影響有 ⇒【その内容】⇒ 成果が満たされた為事業完了
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ⇒【理由】⇒ (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ 類似事業はない
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 成果が満たされ事業完了
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 成果が満たされたため、事業完了
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 生産基盤を整えることにより新しい作物(農産物)の生産・販売が行え、消費者に提供できることにつながり、公平公正である。

合志市

事務事業名	ハウス棟運動助成事業	所属部	産業振興部	所属課	農政課
-------	------------	-----	-------	-----	-----

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

目的妥当性、有効性、効率性とも成果が満たされ事業完了

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☒ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項